



# e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

## HCJB『アンデスの声』 日本語放送 メールマガジン (第45号)

2006年11月20日発行

### みちほの「オーストラリア生活体験記」(その1)

私達のシドニーでの生活が始まったのは3年前の、丁度今頃の時期でした。私にとってこれは、“初”の海外生活です。日本と季節が逆さまのオーストラリアは“夏真っ盛り”、鋭い日差しの反射で、透き透った海がさらに綺麗なエメラルドグリーンにきらきら輝いていた風景を忘れられません。クリスマスが近付いていたせいかサンタクロースをよく見掛けましたが、どのサンタクロースもTシャツに海水パンツ(短パン??)の姿だったので、なんとなく笑ってしまいました。真夏のクリスマスでTシャツのサンタさんがいる一方で、やっぱり北半球からの移住者のDNA故か、クリスマスには雪がないと…、ということで、真冬(7月)にシドニーから程近い雪化粧のブルー・マウンテンズに出かけて、擬似クリスマス(Yulefest)を楽しむ人たちもいるそうですよ。

まず最初に驚いたのは、お店の営業時間の短さです。週に一度だけ長く営業する日があるのですが、普段は大抵のお店が予定営業時間より少し早めに閉店してしまいます。お客様よりも自分の時間を大切にしているのでしょうか?? でも、この営業時間が短いことが逆に私達に良い影響を与えてくれます。日本のように、いつでも買い物の誘惑があると、つい歩き疲れ、あっという間に一日が終わってしまいますが、シドニーでの生活は、なんと一日の長く優雅なことでしょ。。。平日は早めに仕事を切り上げてビールを飲み、そして、週末は海で遊びバーベキュー。っというのが地元の人達の典型だそうですが、週末も家族をとっても大切にしているようです。そう言えば「I can't believe, I'm working on Friday (なんで、俺は金曜日に働いてんだあー)」と叫びながら働いているおじさんもいましたよ。

”G'Day (グウッダイ)”ときけば、ここでは日常の挨拶語でGood Dayのこと、と説明されればわかるのですが、私もなまじ英語をかじっているだけに戸惑ったのは発音です。オーストラリア英語に堪能な方なら、「あ〜、あれのことか」とすぐに理解出来るのでしょうか、エイ(ei)をアイ(ai)と発音するので「Hey St.」も「High St. (ハイ・ストリート)」となるので、タクシーを利用する時に「ヘイ、ハイだよ」と言わなければなりません。”G'Day”よりもよく耳にした「ター(Tah)」は、“thank you”の意味といわれても短すぎて有難味が伝わってきません。イギリス英語の影響が強いオーストラリアではアパート(apartment)のことをフラット(flat)、ビルディングの呼び方は、私達には地上一階なのに、なぜか二階から一階、二階と数えます。五階にのぼらなくても誤解ばかりです。茄子も”eggplant”なら卵のかたちをしているのですと頭に入るのですが、”aubergine”ではなかなか覚えられません。石頭のことをひょっとしたら茄子頭っていうのかしら。エレベーターはリフト、もちあげられる感じは出ています。同じ英語なのに首をかしげることばかりです。なんて、要するに、ただの私の勉強不足ですね。

亀が産卵しに来ることで有名な島 Heron島で私達は初めて野生のサメと対面、いや、サメはカーブしたばかりでお尻(尾鰭)を向けていましたが、サメと言っても、“リーフシャーク”という珊瑚内にいるフレンドリーなサメだそうです、が水槽のバリア1つない海中で遭遇したら、ちょっとしたパニックに陥り、何度も「振り返らないで下さい」と御祈りしていました。この島は「一日一回しか船が来ないから泥棒が現れても直ぐに捕まえられる」と強気で、どの部屋にも鍵が付いていません。『鍵がない部屋なんて信じられない』と最初のうちは思いましたが、毎晩この島で休む大量の渡り鳥の鳴き声にも慣れて来た頃、ちょっと文明的な原始生活をしている気がして、完璧な日本ではなかなか味わえない開放感を楽しむことが出来ました。



列車のダイヤが乱れ、予定時刻に追いつくために停車駅を飛ばして走ったり、突然ストでフェリーが動かなくなったり、キャンプ中にワニに襲われたり、自分の敷地内に停めておいた車に駐車禁止の切符が貼られたりと日本では予想外なニュースが盛り沢山でしたが、どれも日本に住んでいたら解らない事ばかりで私にとってどれも良い刺激となりました。

《つづく》

尾崎みちほ:

大阪府藤井寺市生まれ、2002年6月に尾崎一夫・久子夫妻の次男祐二と結婚し、尾崎ファミリーの一員となる。オーストラリアからの短波放送では、レポーターとしても活躍。2006年8月に帰国し、現在は東京に在住。

---

HCJB日本語放送担当

在 尾崎一夫

---

## HCJB日本語放送(オーストラリア送信):

放送日時: 毎週土曜日、日曜日  
日本時間 0730 - 0800 (2230 - 2300UTC)  
送信周波数: 15525 kHz (19mb)  
受信報告書の宛先: 〒169-0073  
東京都新宿区百人町1-17-8  
淀橋教会HCJB係  
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

---

## 【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mnz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

---

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2006 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: [kozaki@hcjb.org](mailto:kozaki@hcjb.org)

郵便の宛先:

Mr. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.

---